

福岡県におけるブドウ晩腐病の初期発病

田 中 澄 人
(福岡県立園芸試験場)

TANAKA, S.

Outbreak of Ripe Rot of Grapes in Fukuoka Prefecture

ブドウ晩腐病はブドウ生育初期から感染することが^{1), 2)}報告されているので、福岡県における初期発病時期を検討するため、分生孢子飛散時期、初期発病について調査を行つたので結果を報告する。

分生孢子飛散調査

39年キャンベルアーリーの前年多発園の木から結果枝を採集して洗い、長さ約40cm、30本を束にして室

内保存し、4月16日径15.5cmのロートの中にたて雨水によつて流される胞子を脱脂綿で採集した。その方法はロートの先端に綿を2重にして水を濾過するように包み綿に付着した胞子を10ccの蒸溜水で洗い、3000 r. p. m. 30分で遠沈して2白金耳とり鏡検して1視野中の胞子数を数えた。40年は3月31日同様に室内保存した枝(30cm, 30本)と圃場において前年多発病樹

の下にロートをさげて、前年と同様に綿で胞子を採集し、遠沈は行なわず0.01cc中の胞子数を数えた。

結果（第1表）：39年は4月下旬～5月上旬に胞子飛散が多く下旬に少なくなった。40年は4月中旬から胞子を認めたが、5月上中旬～下旬に多い傾向であった。

発病時期調査

キャンベルアーリーについて39年120果房、40年270果房調査した。その結果（第2表）39年は6月上旬に黒点症状の発病を認め、その後果実着色期頃から腐敗型の暗紫色病斑をつくり発病が多くなった。40年は6月下旬に初期発病を認め前年より約4半月おくれ、その後の発病も少なかった。

ブドウの生育は39年は40年よりも進み、果実着色時期で約4半月早かった。

発病調査樹について39年4月中旬、40年5月中旬か

ら10～14日ごとに10ヶの花房、果房をとり、常法により病菌分離を行った結果、39年は6月上旬、40年6月下旬から病菌を検出した。

幼果における潜伏期間調査

39年5月21日、5月25日アヅキ大の幼果にガラス室で塗沫接種した。その結果潜伏期間は4日～7日であった。

以上のことから福岡県における初期発病時期は6月上旬頃からと思われるが、4月から分生胞子は飛散しているので今後さらに感染時期について検討を要する。

参考文献

- 1) 矢野竜 (1961)：農業および園芸36(1), 75～78
- 2) 石井賢二, 白瀬勝喜代 (1964)：日植病報29(2), 67 (講要)

第1表 分生胞子飛散数調査

調査年	供試枝	4月							5月							6月		
		9日	18日	23日	24日	26日	27日	29日	2日	3日	10日	15日	20日	25日	27日	4日	5日	12日
39年	枯枝						27*		45*					4*			2*	
40年	枯枝 生枝	0 0	1	4* 6*	2* 1*	2* 1*		0 4		0 8	1 2	2 0	1 2		13 1	1 1		2 6

注：1) *印は採集雨水を遠沈後調査
2) 枯枝室内保存枝，生枝圃場調査

第2表 発病消長調査

調査年	事項	5月 29日	6月 2日	3日	9日	10日	15日	17日	25日	30日	7月 7日	14日	21日	24日
39年	発病房率 果実生育状況	0		0.36	0.60		1.19		着色始め	1.19	1.31	2.74	6.90	25日収穫始め
40年	発病房率 果実生育状況		0 アヅキ大			0	0	0.36				着色始め		0.74